



TAC管理会計論-テキストチェックゼミ(安達)

第2回 費目別計算
2022年12月22日(木)19:00～

ガイダンス（再掲）

第 1 回目でガイダンスを行っているので、
ご覧になっていない方はまずはそちらもご覧ください。

ゼミ運営のルール

- ① 当てられたら必ずミュート解除してください！！
- ② 質問は最後にまとめて受けます！！
- ③ 試行錯誤やっておりますので，不手際等は申し訳ありません。
- ④ なるべく当てられる側になりましょう！視聴者だと効果は大半減します。
- ⑤ 参加者が多いと全員当てられない可能性もあります。偏るかもしれません。嫌っているわけではなくて，単純に私のミスです。。申し訳ないですが，アピールください。。
- ⑥ 今年でもう最後にしましょう！！みんなで合格！！
- ⑦ 参加者への悪口などは絶対に禁止をお願いします！！
- ⑧ ゼミ運営の場においては，皆様に気持ちよくなってもらいたいとは思っていません。最終的に合格されることがサービスだと思っています。時に厳しいこと，不快に思われることなどあるかもしれませんが，悪意はなく，皆様に奮起していただきたい気持ちですので，ご理解ください。

ゼミ運営のルール part2

- ⑨ 視聴者参加で私の質問をひたすらメモるのはなしでお願いします。正直意味ないです。
- ⑩ 質問中はテキストを見てはいけません。全部終わってからテキストを開いてください。**
- ⑪ テキストを見て答えていることが発覚したら, , , , , とんでもないことになります。
- ⑫ わからないことはなるべくこの時間までに解消してきてください。
- ⑬ Twitter のDMで質問していただいてもいいですが、最近めっちゃめっちゃ返事遅いです。。。推奨しません。。。。
- ⑭ わからなかったことを後で確認できるように何かメモする紙があったほうがいいです。
- ⑮ ぜひ、勉強仲間がいる人は友達同士でもやってみましょう！
- ⑯ いつか交流会したいですね～。

ゼミ受講の仕方

1. **予習必須**です。中途半端な予習は他の参加者の迷惑になりますので、頑張ってやってきてください。

2. テキストの読み方

- 自分の頭の中の知識を整理整頓しましょう。そのためには、論点のつながりを意識したテキストの読み込みをしましょう。→テキストの見出しを読む、目次でテキストを思い出す等。
- テキストを読むにあたって、疑問を持って読むようにしましょう。そして、その疑問を自分で解決するようにしましょう。これは、論文試験での考え方につながります。→棚卸減耗費は、なぜ間接材料費ではなくて、間接経費なのか？
- 5分でも2分でも1分でも、よいのでテキストを思い出しましょう。思い出すことがとっても大切です。アウトプットしようと思わないと、インプットできません。

3. ゼミ中

- 要らない紙などを手元において、後で確認したいことや、質問事項などあればメモしておいてください。
- 他人が当てられているときに、自分が当てられたと思って考えておきましょう。
- 質問を繰り返し読み上げるのは大変なので、集中力もってお願いいたします<m(__)m>

ゼミ受講の仕方 ～ 2. の補足

論文式試験における問題の考え方は下記の通りになるかと思います。

Q. 棚卸減耗費≠間接材料費となり, 棚卸減耗費 = 間接経費になるのはなぜか

ここで, 間接材料費と間接経費で, 間接費になることは問題ない。

棚卸減耗費が材料費ではなくて経費となることについて証明する。

それぞれの定義を確認すると,

材料費 = 物品の消費によって生じる原価

経費 = 材料費, 労務費以外の原価要素

棚卸減耗費 = 紛失, 盗難, 破損, 蒸発などによる減少分

上記より, 棚卸減耗費は, 材料費の定義を満たさない。また, 労務費ではないことは自明であることから,

∴ 棚卸減耗費は間接材料費ではなく, 間接経費となる。

(Q.E.D)

ガイダンス ～〈原価計算編〉スケジュール～

回数	実施日	時間(目安)	実施テーマ
1	2022年12月12日(月)	18:30~20:00	ガイダンス&材料費
2	2022年12月22日(木)	19:00~21:00	第2章：費目別計算
3	2022年12月28日(水)	19:00~21:00	第3章：製造間接費の配賦～第4章：部門別計算
4	2023年1月12日(木)	19:00~21:00	第5章：個別原価計算
5	2023年1月19日(木)	19:00~21:00	第6章：総合原価計算
6	2023年1月26日(木)	19:00~21:00	第7章：標準原価計算
7	2023年2月2日(木)	19:00~21:00	第8章：直接原価計算，第1賞：原価計算総論
8	2023年2月9日(木)	19:00~21:00	原価計算総復習

ガイダンス ～〈管理会計編〉スケジュール～

回数	実施日	時間(目安)	実施テーマ
9	2023年2月16日(木)	19:00~21:00	第1章：管理会計総論，第2章：財務情報分析
10	2023年2月22日(水)	19:00~21:00	第3章：CVP分析，第4章：予算管理
11	2023年3月2日(木)	19:00~21:00	第5章：資金管理，第9章：設備投資意思決定
12	2023年3月9日(木)	19:00~21:00	第6章：原価管理
13	2023年3月16日(木)	19:00~21:00	第7章：ABC／ABM，第8章：業務的意思決定
14	2023年3月20日(月)	19:00~21:00	第10章：分権組織とグループ経営
15	2023年3月30日(木)	19:00~21:00	管理会計総復習，第Ⅲ部：補足論点（ほんのちょっとだけ）

材料費について

23年目標テキスト P 18～ P 31

原価計算基準 11

※スライド番号83ページまであります！！

材料費について

Q.
材料費とは何ですか？

材料費について

Q.
直接材料費と間接材料費を分類するとそれぞれ何になりますか。

材料費について

Q.
直接材料費、間接材料費それぞれの費目の計算方法とその理由を教えてください。

材料費について

Q.
材料費の計算方法について、ざっくりと体系化して説明してください。

Q.

工場消耗品費や消耗工具器具備品費は材料^a%を用いないことがあります。なぜでしょうか。

Q.

継続記録法と棚卸計算法はそれぞれ何を計算する計算方法ですか。

Q.

継続記録法と棚卸計算法の利点を教えてください。

Q.

棚卸減耗費は原価計算上どのように処理しますか？

Q.

棚卸減耗費が、間接材料費ではなく、間接経費になるのはなぜですか？

Q.

実際購入原価の計算はどのように行いますか？

Q.

外部副費は原価計算基準では何と呼ばれますか？

Q.

外部副費と内部副費に分ける基準は何ですか？

Q.

外部副費の具体例は何ですか？

Q.

内部副費はなぜ購入原価に算入しないことができるのですか？

Q.

副費を購入原価に算入する場合、賦課か配賦かという論点がありますが、どのように使い分けますか？

Q.

副費には予定配賦が認められていますが、なぜですか？

Q.

購入代価は実際に材料副費が予定配賦で計算した場合は予定購入原価になりますか？

材料費について

Q.

副費を購入原価に算入しない場合、どのように処理をしますか？

Q.

内部副費を購入原価に算入しない場合、間接経費として扱いますが、なぜですか？間接材料費にならないのですか？

Q.

値引・割戻の論点はテキストに記載があるのに、割引の論点がテキストに載っていないのはなぜですか？

Q.

値引・割戻の処理をすることで、材料費の計算上どの部分に影響を与えますか。

Q.
値引・割戻の場合があった場合の処理を教えてください。

Q.

材料の返還・返品処理をすることで、材料費の計算上どの部分に影響を与えますか。

Q.

予定消費価格，予定受入価格の違いは何ですか？

Q.

予定消費価格の利点は何ですか？

材料費について

Q.

あなたは、後輩から下記の質問を受けました。どのように回答しますか？

予定受入価格の利点に、

「材料費の計算が迅速化される。」と、

「材料元帳の計算・記帳事務が簡略化される。」と
いうのがあると思うんですけど～。これって何が違うんですか？

材料費について

Q. 下記の問題に対する解答を見て，不完全な（論理的でない）ところを指摘してください。

問：材料費の計算において，予定価格を材料消費時点から用いることで得られる利点を答えなさい。

解答：
予定消費価格を利用すると，材料費が即座に計算することができる。また，材料費は価格変動の影響を受けることなく，消費能率の良否のみを反映する。
（解答欄にはまだ余裕があることとする。）

論理の飛躍について

論文式試験で解答を作る際に気を付けていただきたい点としては。

「論理の飛躍」が起きないようにしてください。

論理の飛躍が起きてしまっている部分というのは、解答だけ読んだときに、「なぜ？」と思わせてしまうものになります。

論理の飛躍がある文章は論理的な文章と言えず、減点ポイントが多くなります。

※もちろん、解答用紙の大きさにもよりますが。

材料費について

Q. 下記の問題に対する解答を見て、不完全な（論理的でない）ところを指摘してください。

問：予定価格を材料受入時点から用いることにより，材料消費時点から用いることで得られる利点に加えて，どのような利点を得られるのか説明しなさい。

解答：
予定価格を材料受入時から用いると，材料元帳の記録は数量だけで済む。また，予定価格による購入原価と実際購入原価の差として計算される受入価格差異は購買部門の活動の良否を示すため，その管理に役立つ。

材料費について

「令和5年第1回短答式試験 問題2より」下記の選択肢の問題を解答するにあたり、〔資料〕に記載のありそうな情報は何か？

問題 2 当工場では、材料Xを主要材料として製品Yを製造している。当工場における次の〔資料〕に基づき、当月の材料Xに関する材料費計算の結果として最も適切なものの番号を一つ選びなさい。なお、計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を四捨五入すること。（7点）

1. 材料副費実際発生額のうち、外部副費は1,387,540円であり、内部副費は1,313,820円である。
2. 材料Xの単位当たり購入原価は8,970円/kgである。
3. 製造間接費は合計で6,067,580円である。
4. 材料副費配賦差異は33,515円の不利差異である。
5. 検収費が35,200円上昇した場合の材料Xの単位当たり購入原価は9,020円/kgである。

材料費について

「令和5年第1回短答式試験 問題2より」
次の問題文から想起されるテキストに記載の内容はどういったものがありますか。

回答例) 内部副費は購入代価又は購入数量を基準として予定配賦をすることになっていたが、今回は購入代価を用いている。

当工場では、材料Xを主要材料として製品Yを製造している。当工場における次の〔資料〕に基づき、当月の材料Xに関する材料費計算の結果として最も適切なものの番号を一つ選びなさい。なお、計算過程で端数が生じる場合、計算途中では四捨五入せず、最終数値の円未満を四捨五入すること。(7点)

〔資料〕

- 1. 当月の材料X購入量 4,950 kg(購入単価 8,750 円)
- 2. 当工場では材料Xの購入代価の3.8%を内部副費予定額として計上している。
- 3. 当工場では内部副費は間接経費として処理している。
- 4. 当月の材料副費実際発生額(工場経理は「原価計算基準」に例示されている費目および分類にしたがっている。)

引 取 運 賃	341,600 円	購 入 事 務 費	359,200 円
手 入 費	95,200 円	保 管 費	330,120 円
荷 役 費	222,100 円	買 入 手 数 料	190,490 円
選 別 費	298,540 円	整 理 費	317,000 円
検 収 費	212,300 円	保 険 料	123,700 円
関 税	211,110 円		

- 5. その他の製造間接費の総額(当月)は、4,455,220 円である。
- 6. 材料副費は全て材料Xに関連して発生している。
- 7. 主要材料は材料Xのみであり、主要材料以外の材料は、購入時に全て間接材料費として処理している。

- 1. 材料副費実際発生額のうち、外部副費は1,387,540 円であり、内部副費は1,313,820 円である。
- 2. 材料Xの単位当たり購入原価は8,970 円/kg である。
- 3. 製造間接費は合計で6,067,580 円である。
- 4. 材料副費配賦差異は33,515 円の不利差異である。
- 5. 検収費が35,200 円上昇した場合の材料Xの単位当たり購入原価は、102,710 円/kg である。

材料費について

「平成31年第 I 回短答式試験 問題 2 より」

次の問題文から想起されるテキストに記載の内容はどういったものがありますか。

（載せていない部分は回答のみです。資料は全て掲載しています。）

回答例）内部副費は購入代価又は購入数量を基準として予定配賦をすることになっていたが、今回は購入代価を用いている。

令和 5 年の問題では、購入単価＝購入代価をベースに計算したもの。という定義でしたが、

こちらの平成31年の問題は、購入単価＝消費価格という定義になってますね…。空気を読まないといけない管理会計論炸裂です。

こういうのは柔軟に対応しましょう。

H工業は、当年度の 5 月 15 日に材料 A と材料 B を購入した。次の〔資料〕に基づき、「原価計算基準」上で認められている手続にしたがって計算した場合の材料 A および材料 B の購入単価について、正しいものの組合せとして最も適切な番号を一つ選びなさい。（7 点）

〔資料〕

1. 送り状

送り状 (No.100654)		5 月 15 日
材料品目	数 量	購入代価
材料 A	200 個	2,400,000 円
材料 B	300 個	3,150,000 円

2. 代金支払条件として、同一月内に材料購入額が一定額に到達した場合には、支払時に購入代価の 2 % 分の割戻を受けることになっている。
3. 引取費用は、送り状 No. 100654 に対して、引取運賃が 180,000 円、買入手数料が 55,500 円であった。なお、引取運賃の発生は材料の購入数量に、買入手数料の発生は購入代価に関係しているものとする。
4. その他の副費の月間予算額については、購入事務費が 150,000 円、検収費が 80,000 円であった。なお、購入事務費と検収費の予算額は購入代価に関係しているものとする。
5. 材料購入代価の月間予算額は、7,500,000 円である。
6. 当年度 5 月は材料購入額が一定額に到達したため、割戻を受けた。

材料費について

「平成29年第Ⅱ回短答式試験 問題2より」

次の問題文から想起されるテキストに記載の内容はどういったものがありますか。

（載せていない部分は回答のみです。資料は全て掲載しています。）

回答例）内部副費は購入代価又は購入数量を基準として予定配賦をすることになっていたが、今回は購入代価を用いている。

我が国の「原価計算基準」では、購入原価および材料副費の計算とその処理についてはいくつかの方法が示されている。次の材料Pに関する〔資料〕に基づき、「原価計算基準」に照らして、以下の(ア)および(イ)を計算し、正しい金額の組合せとして最も適切なものの番号を一つ選びなさい。（7点）

- (ア)材料副費の予定配賦を行わない場合、材料Pの購入原価として計算される金額の上限と下限の差額
- (イ)材料引取費用以外の全ての材料副費について材料購入代価を配賦基準とし、一括して予定配賦を行う場合、材料Pに関連する当月の材料副費配賦差額

〔資料〕

1. 材料Pの当月送状価額	3,000,000 円
2. 材料Pに関する材料副費の当月実際発生額	
(1) 買入手数料	10,000 円
(2) 購入事務費	50,000 円
(3) 社内検収費	8,000 円
(4) 引取運賃	86,000 円
(5) 運送保険料	5,000 円
(6) 倉庫保管費	20,000 円
3. 材料Pに予定配賦する材料副費(材料引取費用以外の全ての材料副費)の年間予算額	800,000 円
4. 材料Pの年間予定購入代価(送状価額)	40,000,000 円

材料費について

「平成27年第Ⅰ回短答式試験 問題4より」

次の問題文から想起されるテキストに記載の内容はどういったものがありますか。

（載せていない部分は回答のみです。資料は全て掲載しています。）

回答例）内部副費は購入代価又は購入数量を基準として予定配賦をすることになっていたが、今回は購入代価を用いている。

当工場では、個別原価計算を実施している。次の〔資料〕に基づき、当月の①製造指図書 # 10、# 11 および # 12 の直接材料費の合計額、②材料に関する製造間接費、③材料に関する価格差異の計算結果として正しいものの組合せを示す番号を一つ選びなさい。なお、計算過程で端数が生じる場合は、円未満を四捨五入する。（8 点）

〔資料〕

1. A 材料、B 材料に関するデータ

	A 材料	B 材料
使用用途	直接材料	直接材料と間接材料
月初有高	@301 円 50 kg	@50 円 200 個
当月購入単価	@300 円	@50 円
当月購入数量	800 kg	1,800 個
当月購入分の引取運賃	16,000 円	3,500 円
当月購入分の内部副費	購入代価の 5 %	購入代価の 5 %
消費価格の計算法	先入先出法	予定価格 (@55 円)
当月消費量	# 10 150 kg # 11 350 kg # 12 250 kg	# 10 300 個 # 11 800 個 # 12 600 個 指図書番号の指定なし 120 個
当月実施棚卸数量	98 kg	177 個
棚卸減耗の発生	正常の範囲	正常の範囲

（注）① 内部副費は購入原価に含まれる。

② B 材料の実際価格は総平均法によっている。

2. C 材料に関するデータ

(1) 使用用途：間接材料

(2) 月初有高 4,300 円 当月購入高 28,000 円 月末有 3,700 円

材料費について

Q. (再掲)

材料費の計算方法について、ざっくりと体系化して説明してください。

労務費について

23年目標テキスト P 32～ P 38

原価計算基準8,10,12

労務費について

Q.

労務費とは何ですか？

Q.

直接労務費と間接労務費の違いは何ですか？

Q.
直接労務費，間接労務費それぞれの計算方法を説明してください。

Q.
直接工賃金，間接工賃金とは何ですか？（どのように計算しますか。）

Q.

直接工賃金を要支払額とした場合、直接工賃金はどのように扱いますか？（何費となりますか？）

また、この処理は、「原価計算基準」にも記載がある内容となります。なぜ、直接工賃金を要支払額として計算できると記載があると思いますか？

Q.

工員とは、何ですか？また、直接工と間接工の相違点を説明してください。

Q.

後輩から下記の質問を受けたら，どのように回答しますか。

テキストに，間接工の例として，「修繕工」と「清掃工」となっています。工員は「製品の生産に携わる従業員」となっていますが，修繕工と清掃工がどのように製品の生産に携わっているのですか？

Q.
労務主費と労務副費という言葉がテキストにも記載がありました
ましたが、それぞれどういう意味ですか？

Q.

加給金と諸手当の違いは何ですか。

Q.

割増賃金とは何を指しますか？

Q.

原価計算期間と給与計算期間が異なっていた場合に、期間調整の計算をする必要があるものは何ですか？

また、期間の調整をする必要のないものは何ですか？

Q.

法定福利費と福利施設負担額を費目別分類で分けるとそれぞれ何になりますか？

また、それぞれどういった意味を持つ費目ですか？

Q.
法定福利費が労務費に分類される理由を説明してください。

Q.

直接工賃金の計算から、間接労務費は生じますか。
生じるとすれば、それは何ですか。

Q.
消費賃率×作業時間で計算される労務費を 3 つ挙げてください。

Q.

要支払額と支払額の違いは何ですか。

Q.
賃金勘定のうち、前期末払と当期末払に加給金は含まれますか。

Q.

消費賃率と作業時間が問題となるのは、直接工ですか、間接工ですか、それとも両方ともですか。

Q.

消費賃率の計算式を説明してください。

Q.

諸手当は賃率計算に含みますか？その理由も教えてください。

Q.

直接作業時間の内訳を教えてください。

Q.

就業時間と勤務時間は何が違いますか？もしくは同じですか？

Q.
間接作業時間と手待時間を区別して把握する理由は何ですか。

Q.

就業時間のうち、原価管理において削減すべき時間は何だ
と思いますか？

Q.

消費賃率の種類のうち「原価計算基準」の原則と容認はそれぞれ何ですか。

Q.

賃率差異はどの勘定で発生しますか？。

労務費について

Q.

諸手当は予定賃率で計算されますか？

Q.

賃率差異は間接工に関係する費目からも発生しますか？

それはなぜですか。

Q.

予定賃率の利点について、まず端的に2つ答えてください。
その後、理由を答えてください。

労務費について

Q.「トレ第Ⅰ部2－3－2（平成26年短答式試験第Ⅱ回 問題2より）」

トレーニングで左記の問題を解いた後輩が下記のように話してきました。先輩として適切な言葉をかけてあげてください。

また、先の問題を見て想起されるテキスト記載の論点をたくさん教えてください。（もちろん、とっても些細なことで大丈夫です。）

「残業時間に対応する金額が@350円って安すぎませんか？これって問題だからこうなっている感じですか？最低賃金下回りすぎwwwwwww草」

次の〔資料〕に基づき、当月の間接労務費および賃率差異に関する計算結果として正しい金額の組合せを示す番号を一つ選びなさい。なお、計算に当たっては、わが国の「原価計算基準」に従うものとする。

〔資料〕

1. 直接工のデータ

当月加工時間	6,800時間
当月間接作業時間	380時間
当月段取時間	540時間
当月手待時間	180時間
年間予定賃率	@1,400円
当月賃金支払額(注)	10,970,000円

(注) 直接工への実際賃金の支払は、前月21日から当月20日までを給与計算期間としている。なお、前月21日から前月末日までの分は3,400,000円であった。

当月21日から当月末日までの賃金未払額	3,372,000円
---------------------	------------

2. 間接工のデータ

当月基本給	7,616,000円
当月残業時間	840時間
残業手当の実際割増賃率	@350円

3. その他の当月のデータ

給料	1,360,000円
従業員賞与引当金繰入額	1,080,000円
退職給付費用	950,000円
法定福利費	270,000円
福利施設負担額	130,000円

間接労務費	賃率差異
-------	------

労務費について

Q. 「令和 3 年短答式試験 問題 2 より」

下記の問題文と選択肢を見て，どのような資料が載っていると想定されますか？また，テキストのどのような知識が必要になりそうですか？思いつくものを上げてみてください。

当工場では，毎月 21 日から翌月 20 日までを工場従業員の給与計算期間とし，毎月 25 日に給与の支払いを行っている。次の〔資料〕に基づき，ア～エの記述のうち，正しいものの組合せとして最も適切な番号を一つ選びなさい。（7 点）

- ア．当月の間接労務費は，12,354,000 円である。
- イ．当月の間接工の実際労務費要支払額は，7,884,000 円である。
- ウ．当月の賃率差異は，118,000 円の有利差異である。
- エ．当月の直接工に関する予定賃率による労務費は，11,060,000 円である。

労務費について

参考：「令和 3 年短答式試験 問題 2」
あれ，平成26年の問題と同じ・・・。

当工場では，毎月 21 日から翌月 20 日までを工場従業員の給与計算期間とし，毎月 25 日に給与の支払いを行っている。次の〔資料〕に基づき，ア～エの記述のうち，正しいものの組合せとして最も適切な番号を一つ選びなさい。（7 点）

〔資料〕

(1) 当月の直接工のデータ

基本給支払額	10,942,000 円
加工時間	6,800 時間
間接作業時間	380 時間
段取時間	540 時間
手待時間	180 時間
定時休憩時間	200 時間
予定賃率	1,400 円／時間
直接工に対する前月賃金未払額 3,400,000 円，当月賃金未払額 3,372,000 円	

(2) 当月の間接工のデータ

基本給支払額	7,590,000 円
残業時間	840 時間
残業手当の実際割増賃率	350 円／時間
間接工に対する前月賃金未払額 254,000 円，当月賃金未払額 280,000 円	

(3) 工場従業員に関するその他の当月のデータ

工場事務員給料	1,360,000 円
従業員賞与手当	1,080,000 円
退職給付費用	950,000 円
法定福利費	270,000 円
厚生費	555,900 円
福利施設負担額	300,000 円

- ア．当月の間接労務費は，12,354,000 円である。
- イ．当月の間接工の実際労務費要支払額は，7,884,000 円である。
- ウ．当月の賃率差異は，118,000 円の有利差異である。
- エ．当月の直接工に関する予定賃率による労務費は，11,060,000 円である。

経費について

23年目標テキスト P 35～ P 41

原価計算基準 10, 13

経費について

Q.

経費とは何ですか？

経費について

Q.

直接経費を 2 つ答えてください。

Q.

複合費を設ける意義はどのような場合ですか。

費目別計算について

23年目標テキスト P 17～P 41

原価計算基準8,10,11,12,13

費目別計算について

Q.

「原価計算基準」14では、

「費目別計算において一定期間における原価要素の発生を測定するに当たり、予定価格等を適用する場合には、これをその適用される期間における実際価格にできる限り近似させ、価格差異をなるべく僅少にするように定める。」

と定められています。なぜですか？